

人文研紀要

第37号～第39号(2000年)

◆第37号—2000年(2000年9月発行 A5版231頁)

Leugnung als konstitutiver Bestandteil moderner Genozidverbrechen	Uwe MAKINO
ソール・ベローとホロコースト, 『サムラー氏の惑星』を中心に	伏谷 幸子
フリードリヒ・トーアベルクの『ジュースキント・フォン・トリムベルク』についての二, 三の事柄	飯塚 公夫
ナポレオン戦争期のドイツにおけるユダヤ人解放に関する一考察	飯森 伸哉
ワルシャワ・ゲットー蜂起におけるユダヤ人抵抗運動の民族的意義	白根澤 正士
「トランシルヴァニアの思想」の源流 —その現象と精神性との歴史的相互関連性—	伊藤 義明
沖縄県新平和祈念資料館問題をめぐって	長谷川 曾乃江
明代遼東統治体制試論 —山東布政司との関わりをめぐって(一)—	荷見 守義

◆第38号—2000年(2000年9月発行 A5版295頁)

ハイランド・クリアランスとゲール語の詩 —S.MacLeanの論考の翻訳(承前)と評註—	小菅 奎申
ベケットとアイルランド文芸復興:『マーフィー』の語り方	北 文美子
「アルカディア」への危険な旅 —『聖者の泉』論—	木村 正俊
「アイルランド聖人伝」編纂の系譜とその性格(2) —中世三大写本集の再検討を中心に—	盛 節子
<i>Lyrical Ballads</i> のPrefaceにおける'Goody Blake and Harry Gill'の位置の変遷	井上 美沙子
トマス・ハーディと「神慮」 —『はるか群集を離れて』をめぐって—	松本 啓
挫折の構図 —カフカ『村医者』の形象世界—	林 捷
ゴヤにおける世紀末性 —『黒い絵』をめぐって(三)—	小山田 義文
魔術オペラの系譜	喜多尾 道冬
1860年代ヴィクトリア朝小説異聞 —たかが小説, されど小説—	井出 弘之

◆第39号—2000年(2000年9月発行 A5版224頁)

Honor en los <i>Fechos de Palacio</i> de Pero Lòpez de Ayala	Hiroko KARIYA
『わがシツドの歌』研究のこれから	福井 千春
老賢者の日欧比較 —メルランとサルタヒコをめぐって—	渡邊 浩司
共同体におけるテオーリアーとフィリアー	土橋 茂樹
集合行動としての民衆文化	田野崎 昭夫
フォークロア再論(Ⅲ) —馬琴考—	加藤 正泰
異文化編入の果てにあるもの —内臓食と日本人—	武山 智
複文研究メモ(4) —単文と複文の連用成分—	野田 時寛
萩原朔太郎一九一六年 —ドストエフスキー体験—	中川 敏